

奧 羽

小學勸農新編

岡見知平著

中

180
7
220

日本教育館圖書			
室		第	三
六		二	六
三	一	架	國
冊	號		

函一號

東京圖
書館
蔵

水戸之

采秋園橋山
主人撰述

本朝郡建置沿革

圖說曰元正天皇養老四年圖陸奥

之地半ハ蝦夷とあり漸々王化之教因テ

淳和天皇天長元年沿革シテ國ノ

名郡建全定ノ圖あり又東國ノ夷地

武内大臣ノ言日高見ノ國トアリシハ

沃野ト去意テテ廣キ良田アル地ヲ去之

予 奥羽此風土は察するに山野廣漠
の地多き也(生草茂州)腐爛(くさりたらし)
て齒(こや)とざるを里殊に其亦也(冬田畑
運(たこ)び作場好まて風るかさし(盛く也)
犯(ま)し力ぬけて苗能生育もあしく(夏
のりも少し)又生草能亦也(ハ淡く
して人力能費多く)作業の損あさる

少(す)か(ら)く(は)一(ひと)畝(あし)の(は)化(くわ)さ(る)事(こと)あり(又
作(さ)物(もの)不(ふ)同(どう)の(は)利(り)きて(る)夏(なつ)の(り)少(す)し(こと)の
運(えん)送(そう)不(ふ)便(べん)利(り)あり(上(う)方(か)ハ(此(こ)不(ふ)益(えき)を(考(こう)
干(かん)籾(ひ)在(い)稻(い)諾(だく)奥(おく)能(の)絞(しぼ)り(糸(いと)の(は)き(き)也(也)し
或(ある)用(もち)ひ(夏(なつ)の(り)多(お)き(は)残(のこ)る(ま)て(耕(こう)作(さく)
せし(もの)の(た)り(の)干(かん)い(こ)し(を(田(た)作(さ)り(と(唱(な)う
ハ(是(こ)の(は)さ(る)事(こと)也(也)し(な(ま)き(と(去(き)す(な

里上方にていとしあやしハ穀を採集
七右むり出大豆能犯しハ六右中葉
六也しハ六右きりて見て作せしと云こ
の籾ハ奥羽の海中ハ多く漢せり
ハ皆人不用して上方ハ賣國用ニ為
ざるも頗る意恨死すと云べし希
此利欲論し作業ハ一助を教示カる

瘠田も良田と兼に産
雪多く積る処ハ去犯て徳あると知る
べし諺も雪ハ豊年能奇瑞と唱る
なり
叔で信濃ハ雪つもる処カあるハ去六十幸
むりしめてハ雪ホ田ハ苗運ハ置ける
ハ風百ハさらさらハ用るハ損ある事ハ致

考ワカ一夏のかりそを冬以ヨりて積ツ置き
以モて之シをヲ腐クぬき去ル也ナリ一屋イへ入リ下ノ糞コ
と交マへて翌ツ春日ノ日ノ干シ一細ミウノして俵ヒ
小入コ臼ウの時ト田ノ運ウびて苗コ用ノ也ナリ
業ツ成ル勢チ力チ了ル処ハ去ル也ナリ一コエマせしコトカク
のや
凡ソて去ル也ナリ一陽ヤ氣キ此コも水ノるコトノ也ナリ

用ノ也ナリ家内ノ埃ホ煤コ古壁コ廿ニ氣キ灰ハ至シてよ
ぎ去ル也ナリ一コトカクコトノ也ナリ
草木ノ花ノ更シ成ル犯スせ色ヲ加ヘわらシせ
又モ香ノとモ更シ成ル薰クきラせルも犯スしと灌ミ澆ス
の仕方ヲ理カかク事ト一コトノ也ナリ一コトノ也ナリ必ズ去ル也ナリ
りカ去ル也ナリ一コトノ也ナリ
更シ成ル用ル五穀ノ綿ノ花ノ更シ成ル用ル紅ノ花ノ

菜。葉は用る。藍煙草。茶葉。根は用
る。大根。菁。諸芋。又皮は用る。麻。葉
。苧麻。楮。百品は用る。肥し。同し。からん
。其他物よりて用ひ方ありき時。害
。とありて不化を爲し。此損益を考ふ
。後

真羽の草丹。場。此争論の郷村の疾

若不絶大いなりあり也。其在処おきころ。事
。憐あはれむべき。此玉のなり。心は用ひ。此也し
。と來る物。少ふからん。又在給干。鱒を用
。る。利。然。而。姓。の。論。し。教。る。時。其。領。主。地
。既。に。勞。煩。は。皆。き。下。の。患。も。ある。ま。り。と
。あり

引書

地錦抄曰犯しハ補ヲ浮ヒ温ク涼シあり

一補ハ鱒ノ油ノ粕ノ乾ハ

一浮ハ魚ノ洗ハ汁ニ漬クだシこト

一温ハ茅ノ灰ヲ燒キ耐ル粕ノ乾ハ

一涼ハ淋ノ小便ト水ヲ吞セこト

又土地ニ冷ハ熱ハ虚キ實アリ草ノ木ハ陰ニ

陽アリ予ハ然レ知リて亦やシ然レ挽カるリ

農業全書曰田畑ハ良ク薄ク肥ク磽クありク

すクやセたル田ハ亦ハ亦ハ然レ用セ水ハ良ク

田ニあリるナリテ水ハ偏ハ小シ養ハ力ヲ養ヒ水ハ

あリざル水ハあリざル又ハ地力衰ハ衰ハあリるナ

て亦生メるナリト亦ハ亦ハ然レ養ハ力ヲ養ヒ水ハ

用ヒ地力助ケるナリトあリ

又ハ亦ハ亦ハ然レ苗ノ糞ノ草ノ糞ノ灰ノ糞ノ泥ノ糞ノ

四色あり苗糞ハ菜豆小豆胡麻大豆蚕豆此穀田年五六月畑又堅田厚く持き七八月不とよき時朱かや一春此穀田とせざるあり

田の多城とり苗能留く小五形花の種を持き八月ハ馬草となす羽豆春すきかやして穀田ハ赤やしとせざべし

草糞ハ草木志けりきりたる好外運て日向ニ積雨お不ひしてむし腐爛たる城細う小きゆかや一便溺成るちひたし日ハ中にて乾し置くとあり火糞ハ万の物城つみかさ祓てむし焼其灰と下こ急と合せきふあり虫生せじ又山畑凡て遠き処一運ぶハ便利あり

泥糞と池川溝おとの水底に犯たる
泥^{どろ}を上げ乾^かして糞^{こやし}を入^いれんとて人糞^{ひとぐん}
或は灰と合^あせ用^{もち}ひ其^{その}志^{こころ}ろく大^{おほ}くあり
田土^{いんち}かき研^{くた}たる時晴^{はれの}日水糞^{みづぐん}うちひと
し干^かしつくる水^{みづ}の志^{こころ}めりたる時^{とき}濃糞^{こご}を
かけたる水^{みづ}の志^{こころ}めり水^{みづ}り水^{みづ}やし用^{もち}ひる
かくれんとて糞^{こやし}を上^{うへ}農^{いん}夫^ぶとも去^いる

古語の上農夫は糞を惜むる黄金を惜
むるおとししともいひり穀^この多^{おほ}少^{すく}ハ則^{すなは}ち
糞^{こやし}を畜^{たく}する術^ての有^ありと志^{こころ}るべし
田畑の糞^{こやし}を入^いるより水^{みづ}の物^{もの}あつるより水^{みづ}を
合^あせ水^{みづ}の味^{あじ}を調^とへぬものあり水^{みづ}やしも
そのごとく水^{みづ}と糞^{こやし}とむらぶく合^あせ水^{みづ}が
他物^{ほかもの}よりらび又^{また}は合^あせ水^{みづ}が害^{わざはひ}とある

そのあり

天地化育の功故に下の助け百穀世に充
たしむるハ糞壤を調る故以て行要と
まべし故にあやしの數十種能く考
て用(不)とまき屋し

肥しの仕方

備後の国ハ藺田多し是故に作ふあやし

多くまき水と木葉覆ふ(不)るま
少し又筑後の国にて苗を植てよめ
田(麦)より残覆る(不)風水乾(不)ま
まもくまき苗の生育もよきなり
馬骨丸て多穀の骨ハ井(不)炭又冷田
ハ灰と交へてよく利くものなり秋田
よめ鶏糞も買(不)調て多く船積(不)登

物なりの又人灰も并蒭ふ六やせし処あり
里と云へり

京大坂の髪うみの垢あかそのり毛木の國くににて買か
集あつめて香果かみの六やしとせしありついで鶏けい魁けいの
糞ふんハ玉たまて上方かみにてよき六やしとせしるなり
又養蚕かい場の蚕こ糞くそもよ料りょうの六やしなり
凡たゞて六やしは用もちひ方かたハ奥羽おくう仕方じかたとハ大おほ

遠たかより少すくしく用もちひて更さらのり能あたきるや
勘かん兵へいし用もちるなり又委くさしきるハ後ご編へん
作し業ぎやうの部ぶハ著ちやくきと

大便ふんハ蓬ほう紙しきぎみ入いれ祿ろくのまをひ日ひニ干か
糸いと引き紙かみ袋ふくろハ水みづ目め形かたち物ものにして賣うる処
あり又州しゅう字じも大おほ刀たうハて割わきして馬うま
踏ふせて用もちる処ところあり如ごとく心こころ然ごとく用もちゆれば更さら

のり堅く味よく不熟きるまな
 只州草の俵あやしとせしむ(白)化し
 又田畑の土とむら交たすしバ苗不田す
 生へてふ化せしものなり

○太刀長二尺七八寸幅二寸位こみ二尺位柄二尺位
 はたちこて草刈

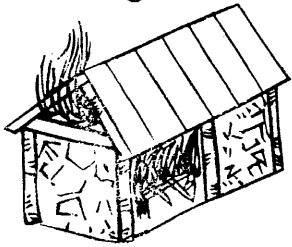
草刈のせて切る



近江義濃辺にて落田^{ふけ}石灰^{いはい}灰用也又
 西国^{あいつ}辺田畑の間^{あいつ}焼^{やき}小屋を建てちり^{ちり}灰
 ろらんぢ馬^{うま}留^{とど}ふと集^{あつ}て焼^{やき}き灰とあ
 大小便と名せまふなり

○小屋の天上ハかべ三方もかべに
 して図のごとく作り灰をとる

○大サ六七尺ニル尺位の
 小屋



大坂くつろと去町ハ赤也ー回屋ありて
賣買まざる処あり小國ハ鱈ハまゝ
出して西國九州ハ下出あり醬油粉焼
耐粉粉ぬり諸魚此後ハ粉皆取場物
ありと云

築東は江戸中此大の便又養蚕場此こ
くそ南部仙臺の魚此後ハ粉皆取

灰大豆煮んけ花豆蚕豆用ひ方の利
勤あり

庄内のさしこゑハ灰と下糞故令玉とし
て苗此根さし入之又近年酒田にて町
中此家々より小便買集めて御村へ賣
るた水流して捨る物哉子金の本出
して田畑の資と為るハ其の利益をえ

かるよりなる屋（かく）にどくもや
 し或はぬ者あらば単（ぶ）不自由とも
 単州（あら）は争論（ま）もある屋から以故
 耕化（か）は急務（きふ）にあらしにありと志るせ
 したるゆ
 一武州（ぶ）辺（へ）は赤玉（せきぎよ）を及（およ）び鯛（たう）の斗（と）に積（た）り大
 豆（まめ）ハ三斗（さんと）たり

一土地（ち）輕（か）くくさ（さ）やしの力を以て化（か）る米
 ハ味（あじ）旨（い）くして目形（めがた）あり
 一木（き）の葉（は）ふもやしハ米堅（か）くして米取（こ）り少
 し鯛（たう）ハ化取（か）り多（おほ）く味（あじ）よし上方（かみ）にて
 鯛（たう）成（な）る金（かね）もよしと去（い）ハ西瓜（すいか）成（な）る味（あじ）さ
 じやうり肉厚（にくあつ）く又近江表（おんえあは）に菰田（こゝろ）の
 鯛（たう）を用（もち）しハ表堅（あは）く火（か）くつり速（はや）から

ば如引いてその徳ひろくと去之

奥羽ハ口けて肥し哉用る利動哉不知
其大小便也よしと為る予其利哉深
くかんがさるるなり候令ハ小便ハ淳酒
めどどし大便ハ酒の糞と去る屋し小
便ハ降物なり是哉用る予一戻と念こ意
に去る屋し大便ハ陽物之其作物小因て

用ひ方あり漫まな小用也水ハ其利也

小便を煙草小用也水ハ火くづりあ
しく且かつ水くたるとだき水ハちり
允てあやしハ日中ひのちゆう炎天えんてんふきべからん
日西小入るるよしあやし哉置き
種たね下し翌日あした土覆つちおほひきべし早

年は作物の赤やしの入やありけ
ては害とならるる能く心は危し
二増の油は後売成秋田にて用るハ予が
勸しより三十年以来用る事とな
りり田地へ多く用ゆれば白穂出る
害ありその品よりか減ある危
し

一赤やしの數十品は其作物は条子
蒸かり又草木の陰陽あるハ赤や
其性小命されば必き害となりて
不作せしものなり
凡て赤やしとあるものハ不浄悪臭
の穢る物なるハ圃場小屋側とも
不其便利成えかりと回し不自由

らざるやうに修理こしらひて置くし又
 作場へ運送はこぶ便器にあへ擔桶をけ畚ふ箕た送
 此をけ桶たし杓し子ことも心こ成じ用よう也なり〱
 草木そく成じ生せい育よくに食たと去こ肥けと去こ資しと云
 皆みな齒は采さい異い又ハ魚いの伎ぎりり稻い多た歎な此
 膏あぶら鷄け魁けいの采さい異いまても虫むし錢せん成じ出し
 て調たへて用もちるり子こ利り成じ能なりく味あじひ

考かんへて其その作し成じるる草木そく成じ生せい育よくに
 き一ひと術じゆつをし知しゆりて耕た作しをた成じむ〱
 徒ただ百姓ひやくしやうあらりまの農いと心こ得とく
 とい年とし毎ごと悪あ作し成じとる子ことなる
 〱
 一ひと田でん畑はたのい水みづやうのい水みづやうあしけし水みづ
 むら生せいむら枯か水みづ苗な種たね々々のいくせ

の出るものありむを細くしてまや
しと和合するやいさゞし農書かも
犁一擺六とて一度ききかやしたる銭
六度かきたよらせと去事なる奥羽ハ
苗植て芸も少し殊ニ中草ニ中草
取の旨へ志やし或入るるなりし作りの
精しき不ハ四中草と取りてむ陽気

の心然らざる術或為るなりむ青のつ
きたる時かきたらせば早かこやしを
吸いとらぬ也(苗の勢かひよく生
去月せしものなり)

予 耘歴尾張にて田畑耕作之事或記を
一草刈打 一小切 一馬把

但し土堅くあるやあるハ三遍も小切する

一苗植付 一大埒一小埒 一把こて摺り
つけ一遍 草取二遍

一ぬりつけとて綿のあいどい成ならししま
よめ干いいし 荏糸いを入れてよこてぬ
り入いめいるいより田の水い成きり少
し干して又水い成かけ五形えは花のい実
成い蒔く八月末ハ馬のい草いといめ

聖春ハ穀田のい也いにすぎかやいなるい
かくい予い成いるいがい也い一少いあいけい
ともい利いよいくいして早く花い咲いてい又
のりい多く刈い収いめもよいきいるいありい百姓
の心いを用いるい処い肝い要いと志いるいべいし

一麦い他いハ秋い蒔い付いひいらい灰い成い牙いとして
下い米い又いハいといしとい種い下いきいなるい

農業全書ニ戻りて、
なほの事とあり

一、水やりの用方、後ある事、残能く志
る處、秋田の田地ハ、苗植付、水や
りを多くする、一、中、単、以、平、で、見
る、生育して、肝要の、更入の、以、水や
り、ぬけて、更入、少、水やりの、土地、の、す、り

て種々の使へ方ありて、土地の力を益
し、作物の利、或得るものあり、必、以、等
果、水やりの、残、用、由、べ、から、び、あ、り、く、用
も、水、が、及、て、害、と、な、る、もの、な、り、
一、決、作物、害、ふ、水やりの、大、旨、残、愛、ふ、速、る
と、い、ふ、も、水、を、委、し、き、ふ、及、び、て、百、二、三、も
い、と、ら、さ、し、後、編、注、他、の、部、の、著、者

へし又ちやしきひ方の種々の術てたであるは
深く作物の性しやうをも考へてふごきぎし
一度のちやしのかきるは紅花あり其の
五分ハ生育をえ或ハ晴雨の考ふま
てノ女女ニふとこまことあるはふなきりか
まべからびりけて單綿たん他のちやしの
乃此方よげ此が概大きくなり綿目あ

るものちやし許此実のりのたふまやし
よしく利きくた術てたでをさくるべしは肝
要の意を用ひ此を越さるたふらむ少し
さ田畑より七割も多き実取あるべし
真羽の農事ハ極重消まき初かや耕かやし耕
極又水を多くに力越つぐまふ皆実
かゆあらん哉計り幸若せり

その教は故に食肥じきこやしの道理を得
るは大に富り若しは得矢は志らざ
れば百日の労苦の力は野に棄ると云べ
し是れ予の勸農の緊要なるは老
婆心ある世の笑も不顧して爾云